

**製品名: p38 MAPK ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab15620**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	42kDa

**抗原情報**

遺伝子名	MAPK14 CSBP CSBP1 CSBP2 CSPB1 MXI2 SAPK2A
別名	Mitogen-activated protein kinase 14 (MAP kinase 14) (MAPK 14) (EC 2.7.11.24) (Cytokine suppressive anti-inflammatory drug-binding protein) (CSAID-binding protein) (CSBP) (MAP kinase MXI2) (MAX-interacting protein 2) (Mitogen-activated protein kinase p38 alpha) (MAP kinase p38 alpha) (Stress-activated protein kinase 2a) (SAPK2a)
遺伝子 ID	1432.0
SwissProt ID	Q16539
免疫原	ヒト p38 MAPK 由来の合成ペプチドポリクローナル

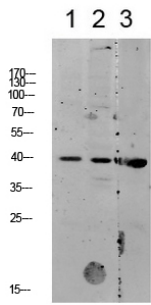
## 背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、MAPキナーゼファミリーのメンバーです。MAPキナーゼは、複数の生化学シグナルの統合点として機能し、増殖、分化、転写調節、発達など、幅広い細胞プロセスに関与しています。このキナーゼは、様々な環境ストレスや炎症性サイトカインによって活性化されます。活性化には、MAPキナーゼキナーゼ (MKK) によるリン酸化、または MAP3K7IP1/TAB1 タンパク質とこのキナーゼとの相互作用によって引き起こされる自己リン酸化が必要です。このキナーゼの基質には、転写調節因子 ATF2、MEF2C、MAX、細胞周期調節因子 CDC25B、腫瘍抑制因子 p53 などがあり、このキナーゼがストレス関連の転写や細胞周期調節、さらには遺伝毒性ストレス応答において役割を果たしていることが示唆されています。この遺伝子には、触媒活性をコードする4つの選択的スプライシング転写バリエーションがあります。ATP + タンパク質 = ADP + リン酸化タンパク質。補因子: マグネシウム。ドメイン: TXYモチーフには、MAPキナーゼを活性化するスレオニンおよびチロシン残基が含まれています。酵素制御: MAP2K3 または MAP2K6 のいずれか、または MAP2K4 によるスレオニンおよびチロシンリン酸化によって活性化されます。DUSP1 などの二重特異性ホスファターゼによって阻害されます。サイトカイン抑制性抗炎症薬 (CSAID) であるピリジニルイミダゾール化合物の結合によって特異的に阻害されます。アイソフォーム Mxi2 は、他のアイソフォームと比較してこれらの薬剤に対する感受性が 100 倍低く、DUSP1 によって阻害されません。アイソフォーム Exip は MAP2K6 によって活性化されません。機能: 環境ストレス、炎症性サイトカイン、リポ多糖 (LPS) による活性化に対し、ELK1 や ATF2 などの転写因子、および MAPKAPK2 や MAPKAPK5 などの下流キナーゼをリン酸化することで反応します。IL-6 などの一部のサイトカインの産生に重要な役割を果たします。低酸素ストレス下における EPO mRNA の安定化にも関与している可能性があります。アイソフォーム Mxi2 の活性化は、マイトジェンおよび酸化ストレスによって刺激され、ELK1 および ATF2 をわずかにリン酸化します。アイソフォーム Exip は、アポトーシスの早期発現に関与している可能性がある。オンライン情報: P38 ミトゲン活性化プロテインキナーゼのエントリー、PTM: Thr-180 と Tyr-182 が二重にリン酸化され、酵素を活性化する。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される (おそらく ATM または ATR による)。類似性: プロテインキナーゼスーパーファミリーに属する。CMGC Ser/Thr プロテインキナーゼファミリー。MAPキナーゼサブファミリー。類似性: 1つのプロテインキナーゼドメインを含む。サブユニット: タンパク質チロシンホスファターゼ PTPRR 内のキナーゼ相互作用モチーフに結合します。この相互作用により、MAPK14 が細胞質内に保持され、核への蓄積が防止されます。SPAG9 と相互作用します (類似性による)。NP60 および FAM48A と相互作用する。組織特異性: 脳、心臓、胎盤、脾臓、骨格筋。肺、肝臓、腎臓でも発現は低い。

## 研究分野

MAPK\_ERK\_Growth;MAPK\_G\_Protein;VEGF;Toll\_Like;NOD 様受容体;RIG-I 様受容体;T 細胞受容体;Fc イブシロン RI;白血球経内皮遊走;神経栄養因子;GnRH;プロゲステロン媒介卵母細胞成熟;筋萎縮性側索硬化症 (ALS);ヘリコバクター ピロリ感染における上皮細胞シグナル伝達;

## 画像データ



- 1 mouse-brain
- 2 mouse-liver
- 3 CACO2

各種溶解液のウェスタンブロット分析。抗体は 1000 倍に希釈した。二次抗体は 1:20000 倍に希釈した。